

旧校舎の基礎、撤去されず

輪内中
改築工事
尾鷲市「行政処分を検討」



撤去されていないことが発覚し、現在ブルーシートで覆われている旧校舎の基礎コンクリート＝尾鷲市賀田町の市立輪内中学校で

【尾鷲】耐震整備事業に伴う尾鷲市立輪内中学校（同市賀田町、浜田一孝校長）校舎改築工事で、新校

舎完成後に解体された旧校舎の基礎コンクリートが撤去されていないことが九

日、分かった。昨年十二月

にあった市への外部からの通報で発覚。工事契約では基礎部分撤去も含んでおり、市は施工業者に撤去を指示し、事情を聞いてい

る。市によると十二月十八日、市内在住者から「旧校舎の基礎が撤去されず残っている」という電話が市建設課にあった。業者に事実確認し、二十四日以降旧校舎跡地の一部を掘り返したところ、深さ約二層の地中に二層四方、高さ約三十センチの鉄筋基礎コンクリートが計約十個埋まっているのが見つかった。

旧校舎は鉄筋コンクリート三階建てで、跡地は現在テニスコートや駐車場、農園になっている。今回基礎部分が見つかったのは跡地南側の農園部分で、市は駐車場やテニスコートにも残

っていると見て調査を続ける方針。

工事はおとし九月、北村組（松阪市中央町）と丸昇建設（尾鷲市倉ノ谷町）による北村・丸昇特定建設工事協同企業体（J・V）が五億一千八百九十一万円で落札し、新校舎は鉄筋コンクリート三階建て、延べ床面積一千五百五十一平方メートル。旧校舎に当たる教室棟と鉄骨平屋建て特別教棟の解体は同J・V下請の市外の業者が担当した。新校舎は昨年八月に完成し、二学期から使用を始めた。九月に新校舎と体育館を結ぶ屋根付通路が一千二百二十八万円追加され、旧校舎解体も開始。工期前の十二月十一日、完成検査を終え全て市に引き渡された。

市はこの問題で、廃棄物処理法違反の疑いがあるとして県や県警と協議。市の担当者は「別の場所から持ってきて捨てたのではなく、不法投棄に当たるとかどうかは微妙だということだったが、処理法違反での告発を視野に入れ、市としても何らかの行政処分を検討する」と話している。